

観光ARアプリケーション

上野直樹、関口昌幸、秋元慶太、谷杉歩音、大崎 敬志朗、
朝香貴裕、藤川恵一、嘉門保夫、杉浦裕樹、生島高裕

はじめに

- ここで展開されるテーマは横浜オープンデータハッカソン&アイディアソン でいろいろだされたアイデアをARアプリケーションということで集約したものです。
- 従って横浜オープンデータハッカソン&アイディアソン参加者皆さんのアイデアでもあります。

観光ARアプリケーションとは

- 町情報のオープンデータからの作成とそのコンテンツのAR配信サービスを行います。
- ポイントは町情報のAR情報への拡張です。
- ARサービスのビジネスモデルとしては、その観光スポットでのAR情報とリアル情報の融合サービスなどが考えられます。
- 例えば、映画ロケ地で出演者の映像と自分の写真の融合など考えられます。
- 様々な著作権ビジネスが展開できる可能性があるでしょう。
- サービス、コンテンツ、情報が行き交い経済的プラットフォームが形成できるでしょう。

モチベーション

- 町に住まう(住居)、たずねる(観光)という生活の基本的行動において、町の情報は非常に重要なものです。
- それでは町の情報が今すぐに入手できる環境にあるかといえ、Webが進んだとはいえまだまだです。

モチベーション2

- その整備に関して、それを促進する近年の動きが2つあります。
 - 1つはオープンデータに基づく、すぐに利用できるデータの増加です。
 - もう1つはLODに代表される、ある程度のインテリジェンスを持った情報サービスが、低コストで実現できるようになったことです。
- この2つの流れによって早く、ローコストで情報サービスを提供できる環境が整いました。
- この状況の変化に乗って、新しい町情報サービス実現を提案したいと思います。

背景のアイデア

1. オープンデータの収集

すでに存在しているオープンデータを収集し、カテゴリー化を行い知識ベースとしてまとめます。

2. 町情報キュレータの情報収集

良い知識、知恵は人が持っていることから、町キュレータを募集しその人たちから情報を収集し知識ベースを構築します。

3. 町キュレータ評価組織

町情報の質の向上のために町キュレータ評価組織を作ります。
これはセマンティックWebの最上位トラスト(信頼)を実現するための組織です。

4. コンシェルジュの育成

町キュレータ評価組織のもとコンシェルジュ、新キュレータの育成を行います。

観光案内などでアルバイトなどのビジネスモデルを作成します。

具体化

- 「観光ARアプリケーション」の具体的事例として「横浜歴史フィールド・ミュージアムAR」を検討します。
- もう少し絞って「横浜歴史フィールド・ミュージアムAR」のプロトタイプ作成を行います。